

2023年 11月 18日 (土)

午後 1:30 ~ 4:30 (開場 1:00)

会場：法政大学市ヶ谷キャンパス
富士見ゲート G501 教室
(市ヶ谷駅徒歩 10 分・裏面に地図)

3館合同シンポジウム

「市民活動資料」 収集・整理・活用 の現場から

法政大学大原社会問題研究所環境アーカイブズ
立教大学共生社会研究センター
市民アーカイブ多摩

さまざまな課題に取り組む市民の活動や人々の思いを綴った多様な資料を「市民活動資料」と呼ぶとすれば、そうした資料は現在どのように収集・整理・活用されているのでしょうか。そしてそれら資料群から、今を生きる私たちは何を受け取ることができるのでしょうか。

このシンポジウムでは、「市民活動資料」を多数所蔵する3つの資料館（法政大学大原社会問題研究所環境アーカイブズ、立教大学共生社会研究センター、市民アーカイブ多摩）の現場から、各館の歴史、コレクションの特性、収集の現状、寄贈者との関係性、資料との向き合い方、利用者との相互作用などについて報告します。そして、そこから浮き彫りになる共通点と差異を手がかりに、各館が直面する課題への取り組み、市民社会が生み出した資料をコレクションの境界を超えてつなぐためにできること、そして「市民活動資料」を保存・活用するという活動が、市民のネットワークを新たに創っていく可能性などについて、参加者のみなさんとともに議論したいと思います。

ふるってご参加ください。

申込不要 (定員 120 人、当日先着順)
参加費無料

問合せ先：立教大学共生社会研究センター
(開催前日まで)

電話 03-3985-4457 (平日 9 ~ 17 時)

メール kyousei@rikkyo.ac.jp

主催：法政大学大原社会問題研究所環境アーカイブズ
共催：立教大学共生社会研究センター / ネットワーク・市民アーカイブ

会場案内図



報告 & パネラー

1 東京都立多摩社会教育会館旧市民活動サービスコーナー所蔵資料とはなにか — 「資料と活動の交流拠点」を引き継ぐために



法政大学大原社会問題
研究所環境アーカイブズ

加藤 旭人 (法政大学大原社会問題研究所環境アーカイブズ リサーチ・アシスタント)

一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程修了。博士(社会学)。東京都多摩地域における障害者運動の研究を通じて、アーカイブズと出会う。著書に、『障害者と健常者の関係形成の社会学—障害をめぐる教育、福祉、地域社会の再編成と障害のポリティクス』(2023年、花伝社)。

2 「市民活動資料」をつなぐ — 環境アーカイブズの閲覧カウンターから

宇野 淳子 (法政大学大原社会問題研究所環境アーカイブズ 専門嘱託 (アーキビスト))

学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻博士後期課程単位取得退学。修士(歴史学)。國學院大学のスタディーツアーでタイ東北に行ったことをきっかけに市民活動資料に出会う。大学や自治体の資料保存機関勤務を経て現職。共著に、『地域と人びとをささえる資料』(2016年、勉誠出版)など。

3 ^{わたし}〈私〉をつなぐ小さなメディア — ミニコミは「資料」なのか？



立教大学
共生社会研究センター

平野 泉 (立教大学共生社会研究センター アーキビスト)

学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻博士後期課程単位取得退学。修士(アーカイブズ学)。埼玉大学社会動態資料センターでのアルバイトを通して、住民・市民運動が生み出す資料の面白さを知る。2010年より現職。共著書に、『続・アーカイブズ論—記録のしくみと情報社会』(2023年、明石書店)。

4 市民運営がつくる公共空間 — ミニコミが媒介する対話



市民アーカイブ多摩

江頭 晃子 (ネットワーク・市民アーカイブ運営委員・事務局)

東京都立多摩社会教育会館・市民活動サービスコーナーに勤務し、ミニコミ資料群に出会う。2002年に同コーナーが事業廃止となり、NPO法人市民活動サポートセンター・アンティ多摩を設立。「市民アーカイブ多摩」設立運動や多摩地域の市民活動情報誌『市民活動のひろば』発行などに関わる。

感染対策について:スタッフはマスクを着用します。参加者のマスク着用はご自身の判断に委ねますが、会場では他の方との適度な距離の確保や大声での会話を控えることに協力をお願いいたします。